

みせる補修としてのダーニング刺繡を用いた制作

A22AB026 太田 遥菜

1.はじめに

本研究は、みせる補修としてのダーニング刺繡に着目し、被服における修繕とデザインの可能性を探ることを目的とする。私たちが日常的に着用する衣服は、長く使用するうちにほつれや破れ、しみなどの劣化が生じる。かつてはそうした傷みを縫い直して使い続けることが一般的であったが、現代社会では大量生産・大量消費の影響により、衣服が傷んだ際に修繕よりも新品を購入する傾向が強く、修繕文化は日常から遠ざかりつつある。一方で、イギリス発祥の修繕技法であるダーニング¹⁾は破れやほつれを補うだけでなく、装飾として新たな価値を付加できる技法として注目されている。

本研究では、成人を対象としたアンケート調査を行い、衣服の購入傾向や修繕に対する意識、ダーニングの認知度を明らかにした。これらの結果から、大人服には“目立たないダーニング刺繡”、子ども服には“みせるダーニング刺繡”を施した制作を行い、修繕をポジティブな表現として再解釈することを試みた。

2.調査方法

2-1調査対象者

調査対象者は、10代～60代以上の女性131人、男性43人、無回答3人、計177人である。

2-2調査項目および方法

調査項目は、以下に示す実態調査および意識調査である。

①実態調査

衣類購入の傾向や衣類にほつれ、しみなどがある衣服をどのように対処しているのかなど

②意識調査

ダーニングの認知度や印象、修繕跡をあえて見せた衣服を着用することへの心理的抵抗感など

調査方法は、Googleフォームによるインターネット上のアンケート調査を実施した。調査時期は、2025年5月～6月、11月であった。

3.結果および考察

ダーニングのイメージについて調査した結果を図1、修繕跡のある衣服の着用への抵抗については図2に示した。

図より、「アートっぽい」が88人と最も多かった。次いで、「可愛い」「ユニーク」が多い結果であった。最も多かった「アートっぽい」という評価から、現代においてダーニングは実用的な修繕技法というより、視覚的表現・装飾として捉えられていることが考えられる。「可愛い」「おしゃれ」といった肯定的評価がある一方で、「恥ずかしい」「ダサい」といった否定的意見も一定数存在した。これは、ダーニングがあえて見せる修繕であることや既存の「きれいで新品の服が良い」という価値観から、評価が分かれたと考えられる。特に、「乞食っぽい」「だらしなく見える」という意見は、修繕＝経済的に余裕がない、という過去の社会的イメージが今もなお残っていることを示唆している。

次に、直した跡のある衣服の着用に抵抗があるか調査した結果を図2に示す。図より、「ある」が19.2%、「ない」が26.6%、「状態による」が54.2%であった。抵抗がある人の理由は、「ダサい」「貧相に見える」「清潔感がない」「古い印象がある」といった意見が多く、修繕の痕跡が生活環境や経済的余裕のなさを想起させていると考えられる。一方、状態によると回答した人は、「目立たなければ良い」「元のデザインを壊さなければ良い」など、修繕跡の主張の強さやデザインとの調和を重視していた。以上より、直した跡のある衣服は一概に否定されているわけではなく、見た目やデザインにより評価が分かれることが明らかになった。

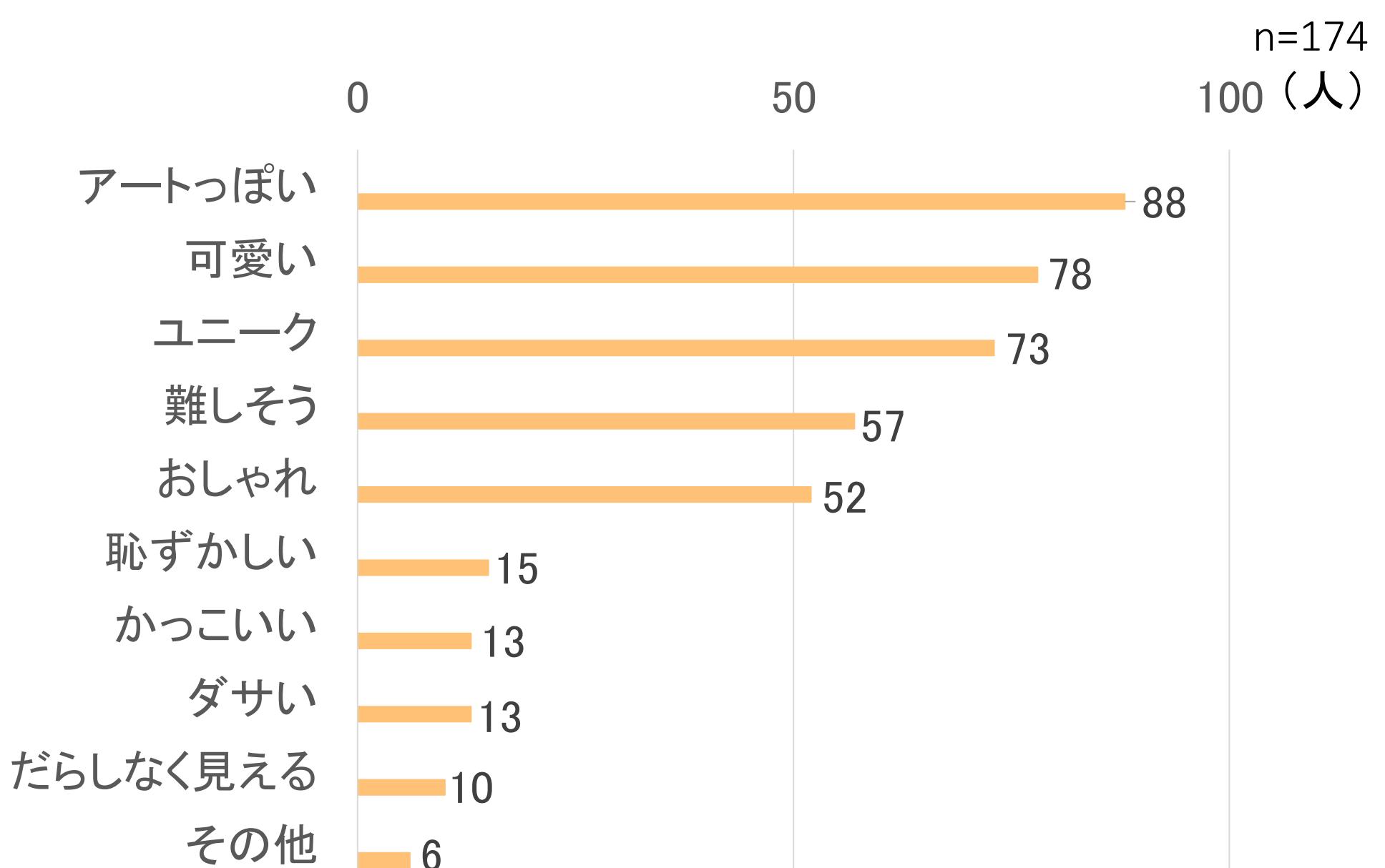


図1 ダーニングについてのイメージ（複数回答）

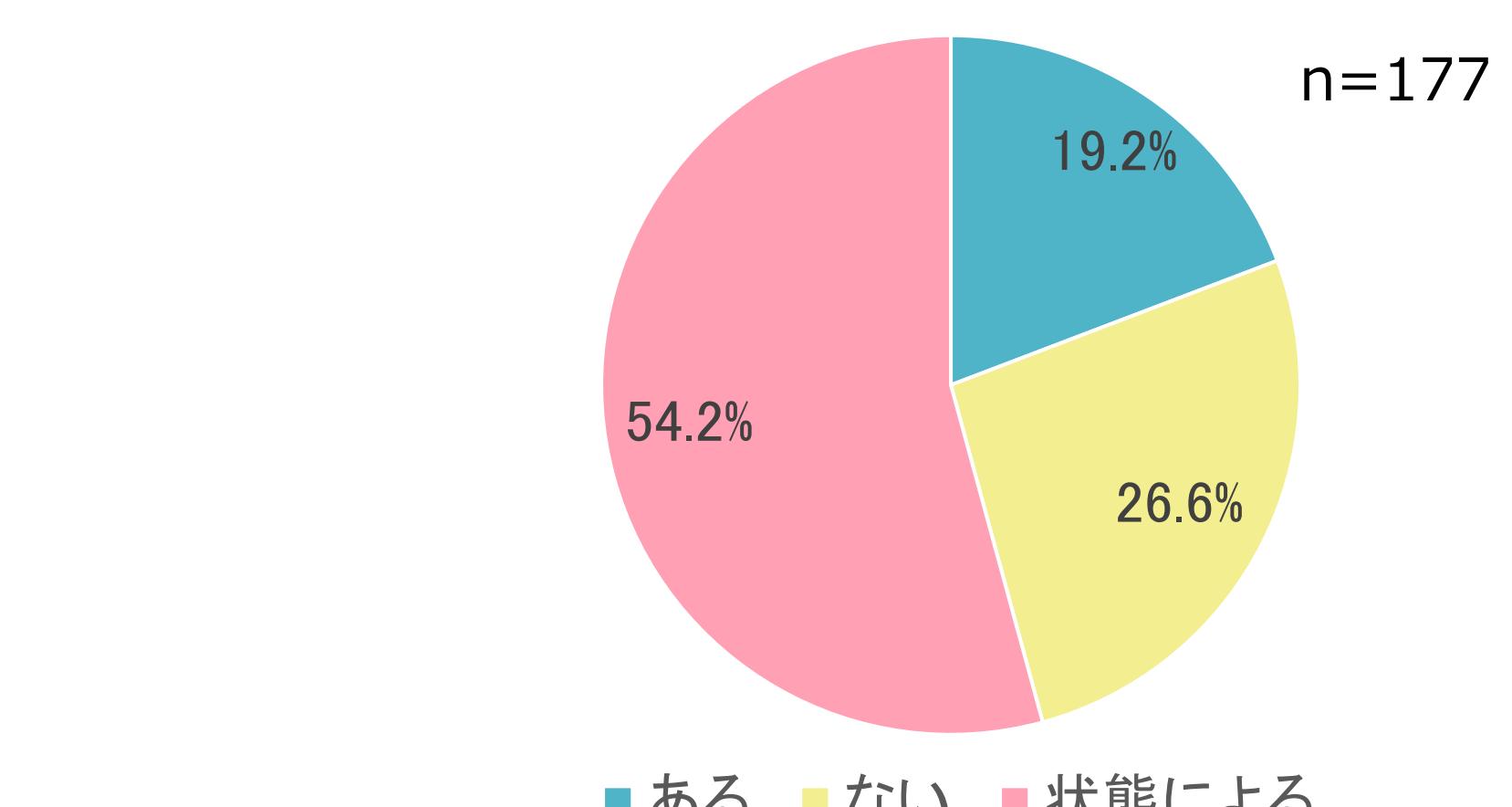


図2 直した跡のある衣服の着用に抵抗があるか

4.作品制作

4-1 基本のダーニングの縫い方

基本のダーニングの縫い方を図3に示す。

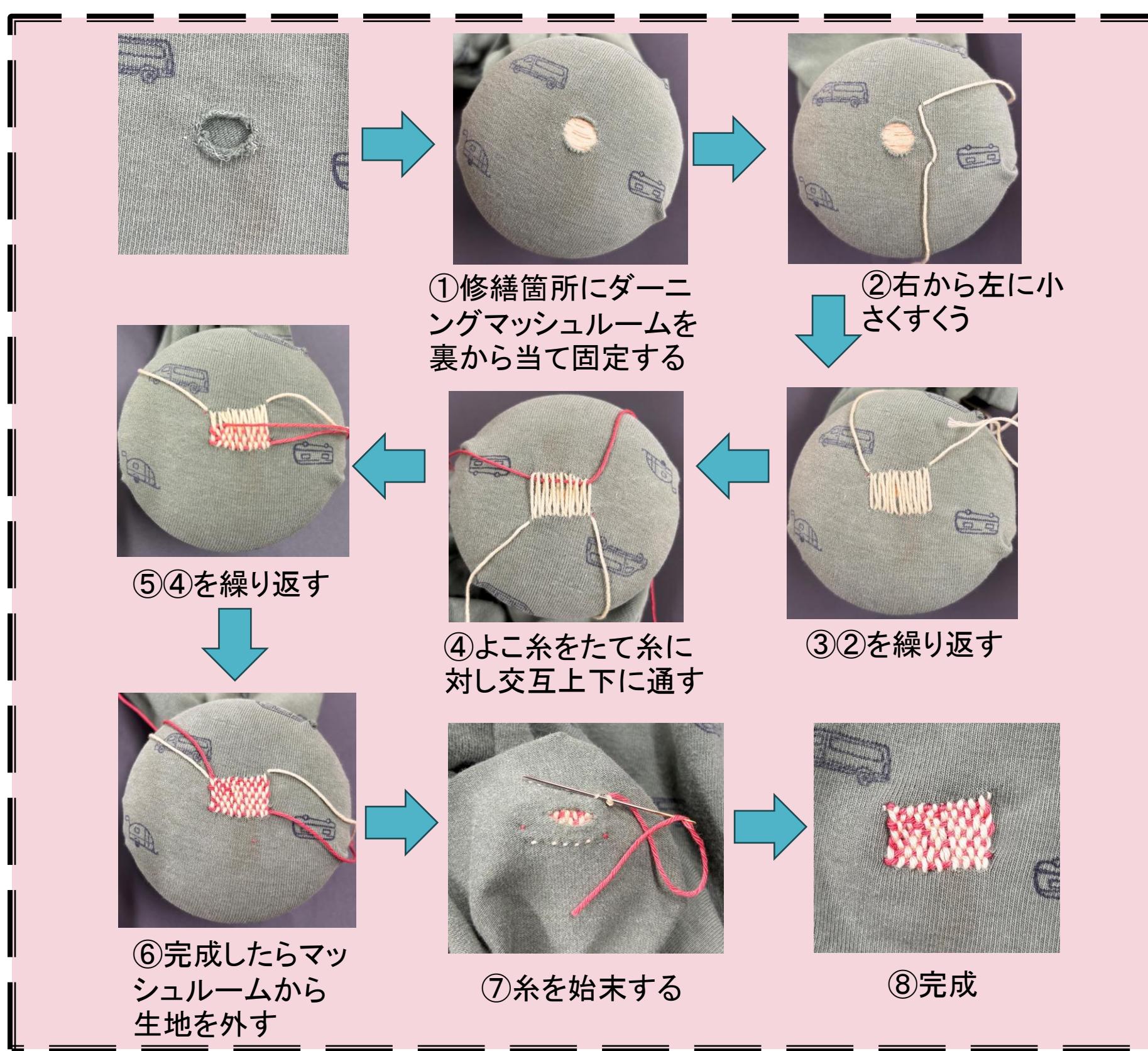


図3 基本のダーニングの縫い方

アート性や個性として肯定的に捉える意見も多く見られた。これらの結果から、修繕は単なる修繕行為にとどまらず、表現の工夫次第で新たな価値を生み出す可能性が示唆された。



図4 子ども服前



図5 子ども服パンツ後ろ



図6 大人服Tシャツ



図7 大人服パンツ



図8 靴下目立つ補修



図9 靴下目立たない補修

5.終わりに

本研究では衣服の修繕跡に対する意識調査を行い、修繕跡に対する評価が一様ではなく、状態やデザイン、個人の価値観によって大きく左右されることが明らかになった。特に、ダーニングに対しては否定的な印象を持つ人が一定数存在する一方で、<https://uchi.tokyo-gas.co.jp/topics/10003>

6.参考文献

- 1) イギリスから来た古くて新しい服のお直し、ダーニングを学ぶ～Vol.1ダーニングの魅力